

【夏風 涼しく 7月】

京都市立下京中学校  
校長 安居 昌行

## 「夢を膨らませる」

街は祇園祭、今年は後祭の復活もあり、伝統を守り続けることの大切さを噛みしめることができる時期です。一方梅雨空が続く中、猛暑日そして台風や豪雨と自然の力を改めて感じさせられる季節となりました。

さて、4月7日に始まり、翌8日の入学式からスタートした「志 風の期間」も7月18日の「志 風の式」でもって一つの区切りとなります。3か月余りの期間で様々な体験をした生徒も成長し、次なる目標に向かって前進していこうとしています。

ところで、私たちの周りで吹く“風”は涼しさを運んでくれますが、時に災害ももたらします。自然現象が私たちの思い通りにはならないように、勉強やスポーツ、文化活動などの取組で自分の計画通りに進まないこともあります。そのような時、本校の校是でもある「志」を高くもち、何事にも挑戦していこうという意志が重要な意味をもつと思います。そして、夢や希望を叶えるために自分は今何をなすべきかと考えるだけでなく、行動に移していくことも必要です。そのようなことを考えているとき、次のような文章に出会いました。

「夢を持つことと、夢を育てることは、同じではない。しばしば私は、“夢の膨らし粉”という言い方をするが、夢を膨らませるには、脳の中にあるロックをひとつ外してやらなければならない。それが“脱抑制”ということだ。“ダメだ”“無駄だ”“できない”というブレーキがかかるのは、リスクを回避するために働かせる脳の防衛手段でもある。だが、現状に対する満足よりも、チャレンジする欲求のほうが大きければ、抑制のロックは外してやることができる。脱抑制した状態に具体的な行動がともなえば、どんな夢も間違いなく膨らみ出すはずだ。」（『プロフェッショナルたちの脳活用法2』茂木健一郎）



〈蓮の花は開く 宇治植物公園にて〉

写真の蓮の花が今開こうとしているように、自分の「夢（花）を膨らませ」ましょう。